



Sasayama Elementary School

学校だより

自分大好き、友だち大好き 進め！笹山の子

平成30年 1月31日発行

平成29年度 第10号

横浜市立笹山小学校

TEL 382-1161 FAX 381-7384

「進め！笹山の子」の先にある目標を見据えて

副校長 桐畑 美登利

1月は寒波が襲来し、笹山小学校のプールや校庭にも氷が張り、低学年の子どもたちは氷を手に取り大喜びでした。また22日に降った大雪で、翌日校庭で雪遊びができました。交通機関は大きく乱れましたが、子どもたちの楽しそうな笑顔は何にも代え難いものです。

早いもので、明日から如月（きさらぎ）、4日は立春となり、暦の上では新しい年の春を迎えます。しかし、寒さはまだしばらく続きそうです。風邪やインフルエンザの流行の報道が聞かれるこの時期、本校でも風邪等による体調不良による欠席者が増えています。学校ではうがい・手洗いを丁寧に行うよう声かけをし、換気にも十分注意しております。保護者の皆様におかれましても、ご家庭において子どもたちの健康管理について、引き続きご留意をお願いいたします。

さて本年度も残り2カ月となりました。子どもたちはこれまでの学校生活を振り返り、学年末までにはクリアしておきたいことや次年度に向けての目標を自分なりに考えて「新年の抱負」として目標を立てました。目標やめあてをもつことはとても大切なことです。この目標やめあてに向かって努力する姿こそ素晴らしいのです。言ってみれば、目標に向かって納得するまで努力したならば結果がどうであれ素晴らしいのです。目標に向かう姿はその人の強さになります。

2月9日から平昌（ピョンチャン）オリンピックが開催されます。日本選手の活躍が大変に楽しみです。なかでも2014年のソチ五輪のスキージャンプで銀メダルを獲得した葛西紀明選手は、19歳でオリンピックに出場して以来、史上最多の計8回目の出場となる選手です。40歳を過ぎてもなお第一線で活躍され、国内外から「レジェンド（生ける伝説）」と呼ばれ尊敬されています。しかし、その背景は決して順風満帆というものではありませんでした。生活が苦しいのに葛西選手のジャンプを支え応援してくれた家族、特に朝から晩まで働き続けていた母に葛西選手は「いつかオリンピックで金メダルをとって家を建ててあげる」と約束しましたが、火事による全身の火傷が原因で母親は亡くなってしまいました。後で辛い闘病生活の中で書いた母からの手紙には「絶対におまえは世界一になれる」と書かれてあり、今も葛西選手はお守りとして持っているのだそうです。また難病になりながらも兄を応援し続けた妹も難病にかかってしまいました。

葛西選手は母と約束したオリンピックでの金メダルはまだとれていません。今度の平昌五輪で金メダルをぜひ・・・と願わずにはられません。葛西選手が長期に渡って第一線で活躍されているのも、母親との約束である「金メダル」にかけた思いなのだと思います。「夢を手放さないものだけが夢を実現できる」これは葛西選手の言葉です。この夢や目標を追い続けているからこそ、怪我や不調をも乗り越えて前へ進む、葛西選手の強さがあるのだと思います。

笹山小学校でも次年度に向けた目標を見定めながら、子どもたちの目標や夢の実現に向けて一歩ずつ進んでいるところです。年度末のまとめに向けて、そして平成30年度の新たなスタートに向けて、これからも引き続き、皆様のご支援ご鞭撻のほどをどうぞ宜しくお願いいたします。



【1月23日の中休みの様子】